

図画工作・美術科と「総合的な学習の時間」とのかかわりを探る

- 図画工作・美術科で身に付けた基礎・基本を生かした「総合的な学習の時間」の在り方 -

図画工作・美術科研究会議

研修員 鈴木 信一郎（川崎市立生田小学校） 浦海 民江（川崎市立西梶ヶ谷小学校）

和田 朝彦（川崎市立東橋中学校） 佐藤 利行（川崎市立南大師中学校）

研修指導主事 行川 博幸

主題設定の理由

来年度から学習指導要領が全面実施される。教育活動を進めるにあたっては「生きる力」をはぐくむことを目指し、特色のある教育活動をどのように展開していくかが今後の課題となる。そして、図画工作・美術科においても、「生きる力」を育てる観点から社会の変化への対応や生涯にわたり美術を愛好できる資質・能力を育てるといった視点を重視し、心豊かな生活を創造していくために、自ら考え、自らつくり上げていくという創造力、生きて働く創造力を育てることを目指していかなければならない。

そこで、本研究会議では図画工作・美術科で培った力や学んだことを、「総合的な学習の時間」の中でどのように生かしていくかについての関連を見いだすための方法を探り、示すことにした。

研究の内容

1. 研究の方向性

研究主題 図画工作・美術科と総合的な学習の時間とのかかわりを探る

副主題 図画工作・美術科で身に付けた基礎・基本を生かした「総合的な学習の時間」の在り方

本研究会議において、主題設定の理由から図画工作・美術科で培った力や学んだことを「総合的な学習の時間」の中でどのように生かしていくのか、その関連を見いだすための方法を探るべく、上記の研究主題ならびに副主題を設定し研究を進めることにした。

2. 研究の方法

本研究会議では、研究主題をもとに以下のような方法で研究を進めた。

- (1) 「総合的な学習の時間」と図画工作・美術科の学習とのねらい等の関連について、文献や資料等から両者に関連して生かせるキ-ワ-ド等を探り、研究を推進していく。
- (2) 図画工作・美術科で、はぐくまれた資質・能力は、「総合的な学習の時間」の中でどのように生かすことができるのか、「総合的な学習の時間」の各学習過程の中で生かすことのできる力や学んだことを、図画工作・美術科のスキルとして整理・分類し、スキル分類表としてまとめている。
- (3) (2)より、分類したスキルが、「総合的な学習の時間」の実践の中で実際にどのように生かしていくのかを、研修員の所属する小学校・中学校で検証し、分析を試みる。

3. 総合的な学習の時間で生きる図画工作・美術科のスキル分類表について

図画工作・美術科で身に付ける基礎・基本（力や学ぶこと）を「総合的な学習の時間」の学習過程ごとに整理・分類し、「総合的な学習の時間」に生きる図画工作・美術科のスキル分類表としてまとめた。

課題	課題発見 ①	課題追究 ②	成果発表 ③
A	自己認知スキル ・提案 ・人、事象との関わり	目標設定のスキル ・先を見通す力	プレゼンテーションのスキル ・デザイン、色彩 ・レポート等のまとめ方 ・視聴覚機器による発表 (OHP, OHC, ビデオ, コンピュータ, デジタルカメラなど)
B ①②に共通するスキル	コミュニケーションスキル1 ・地域とのつながり ・伝統・芸能・地域の行事 ・環境 ・地域の方の講話、講演 コミュニケーションスキル2 ・図書館、資料館、美術館、博物館 ・その他の公共施設	情報収集・活用スキル ・情報機器の活用 (コンピュータ, 電話, FAX など) ・図書室の利用・活用 ・資料・情報の収集 ・インタビュー ・視聴覚機器の活用 (ビデオ, カメラ, TV, OHP, デジタルカメラ)	発想・構想のスキル ・ヒントコーナー ・参考作品(例示) 材料の収集・活用スキル ・収集、見立て、活用 ・取捨選択
C ②③に共通するスキル		用具、工具の扱い方のスキル ・選択方法 ・活用仕方 ・扱い方 ・材料、技法体験コーナー	表現・技術のスキル ・イメージ化 ・様々な表現方法 ・スケッチ、観察記録 ・配色の知識・方法 ・筆の秩序(構成の基本)
D ①-③に共通するスキル	自己実現のスキル ・学び方、知識、技能	コミュニケーションスキル3 ・自己、他者理解 ・鑑賞(自分のよさを伝える、相手のよさを知る) ・相手に気持ちを伝える(手紙、カード、プレゼント)	
E ①②に共通するスキル	創造的思考スキル ・新たな課題		

横軸を学習過程とし、左より順に課題発見、課題追究、成果発表とした。また、縦軸を～の学習過程の位置付けと関連付けての分類とし、Aは各学習過程別に位置付くスキル、Bは課題発見から課題追究までの過程に共通するスキル、Cは課題追究から成果発表までの過程に共通するスキル、Dは課題発見から課題追究、成果発表までのすべての過程に共通するスキルとして示した。Eは課題を発見し、さらに課題を追究したものを成果発表として研究等のまとめを行うことにより、新たな課題を発見することができるのではないかと考え、創造的思考スキルとして示した。

これまで図画工作・美術科では、培った様々な力や学んだことを総合的に働かせ、生活の中で生きる力と成りうるよう指導してきた。用具、工具の扱い方スキルや表現・技術のスキルは、技能の面において重要である。また、コミュニケーションスキル2や3なども図画工作・美術科において重要な部分を占めている。また、図画工作科において指導している「造形遊び」では、遊び性を生かした材料や環境等から自ら課題を発見し、追究する学習活動である。学習活動を通して材料の持つ可能性を探ったり、自分自身の可能性を伸ばしたりする学習内容などは、「総合的な学習の時間」で求められている内容を含んでいる。それでは図画工作・美術科で培った力や学んだことがスキルとして「総合的な学習の時間」でどのように生かすことができるのだろうか。その関連を実践より探る。

4. 実践から

(1) はじめに

図画工作・美術科で身につけた力や学んだことは、どのように「総合的な学習の時間」に生きて働いているのか。その関連について、各学年の発達段階に応じた実践の中から考えてみることにした。


本実践では、それぞれの「総合的な学習の時間」の中で、図画工作・美術科で身に付けるスキルが、どのように生きているのかを探り、その関連を示す。また、「総合的な学習の時間」を通して図画工作・美術科で身に付けておくべき基礎・基本についても見直すきっかけにしたい。

小学校3年生の実践から

「生田緑地へ行こう」の実践の中で生きる図画工作・美術科のスキル

ねらい: 「岡本太郎美術館へ行き, 岡本太郎の作品を鑑賞する中で, 自分なりの見方や感じ方ができる子どもを育てる。」

育てたい資質・能力: 作品を鑑賞する中で自分なりの見方ができる, 自分なりの感じ方ができる
「生田緑地へ行こう」の実践の中で生きる図画工作・美術科のスキル

時間	流れ・学習活動	図画工作とのかかわり	教科で培った力(スキル分類)
1	・乗り物に乗って, 生田緑地に行く計画を立てる。	・岡本太郎美術館について知る。	・自己認知スキル (提案, かかわり)
2	・グループで相談して計画を立てる。	・太郎さんの作品について知る。 子ども向けガイドブック 題名あてクイズ カードゲーム(鑑賞遊び)	・意志決定スキル (興味, 関心, 教師のなげかけ) ・鑑賞のスキル (鑑賞の方法) ・発想・構想のスキル (複製画, カード)
6	・校外学習 生田緑地 生田駅より電車に乗る グループ行動 生田緑地 岡本太郎美術館 枳形山頂上での遊び グループ行動 向ヶ丘遊園駅より電車に乗り生田駅へ	・美術館の見学 ガイダンス 学芸員さんとの触れ合い 本物の作品との出会い 見る, 聞く, 触れる, 体験する カードに書く	・コミュニケーションスキル 1, 2 (地域, 美術館, 人とのかかわり) ・鑑賞のスキル (鑑賞の仕方) ・自己実現のスキル (学び方, 知識)
6	・まとめと発表準備	・感じたことや思ったことなどを絵や文にまとめる。 感想を鑑賞カードにまとめる 美術館に手紙を書く 絵に描く ・校内作品展 自分なりの塔を描いて仕上げる 共同作品 「母の塔とわたしたち」 鑑賞カードにまとめる	・コミュニケーション 3 のスキル (他者理解, 鑑賞) ・プレゼンテーションのスキル (まとめ方) ・鑑賞のスキル (鑑賞の仕方) ・表現のスキル (イメージ化)
全 15		・コミュニケーション 3 のスキル (自己, 他者理解)	

小学校5年生の実践から

本校では「総合的な学習の時間」のテーマが各学年ごとに設定されており、今年度の5年生は「自然・友だち・ふれあい」として取り組んできた。5年生での図画工作科の内容や今までの経験が「総合的な学習の時間」の中でどのように生きているのか、今までの活動を整理し考えてみることにした。

学級の実態として図画工作科の好きな子どもたちが多く、しかし、技術面での経験が少なく思うようにできずに悩んだり、思うようにできなくてもよしとしている子どもも少なくなかった。それは、図画工作科の時間だけに限らず教科のまとめにおいても同じで、相手に伝えようという意識が薄いものであった。そこで、1学期の図画工作科では、子どもたちに描画材等の特徴や技法が経験できるような単元を扱うようにした。様々な技法を知ることによって、子どもたちも自分の思いに対してこだわりを見せるようになり表現の幅も広がってきた。

総合的な学習の時間では主に自然観察のスケッチ、絵手紙、観察記録、自然に関する絵本づくり、また、子ども祭りでは自然素材を生かしてつくって遊ぶコーナーなどを行った。それらの活動では、今まで図画工作科で培った力の中で、見たもの観察したものを、自分なりにとらえ表現する力、とりわけスケッチする力が生き、作りだす喜びを味わった。また観察記録や絵本づくりの活動後には、自分たちの作品をお互いに鑑賞し合う時間を設け、友達のよい点、次回自分が取り入れたいとする点など意見交流をした。これは、自己、他者理解につながり、コミュニケーションスキル3が生きていると考えられる。友達の作品を見ることでまとめ方や色づかい、レイアウトの工夫など、子どもたち自身も前回のものよりもよいものにしようといった意識が高まってきた。また、自分だけの安易な自己満足ではなく、自分が伝えたいことが相手に伝わるように取り組めるようになってきたのではないかと思う。

(3) 中学校での実践例

「総合的な学習の時間」は教科目標の枠を超え、各教科等で身に付けた知識や技能を相互関連的、総合的に働くことを目指した学習活動として位置付けられている。そして、各教科等で学習した成果が生かされ、相互に関連付けられ総合化される時間となることが大切である。

美術科とのかかわりの一つに、美術科の学習で身に付けた表現の技法などが「総合的な学習の時間」において生きて働き、関連付けられることが考えられる。これらを導入の段階で意識付けをすることで、課題発見の糸口を見つける手助けとして、課題探求心をさらに感化させたりすることができる考えた。

本校では、総合的な学習の時間の名称を「いきいきライフ」としており、基本テーマのキーワードを「いのち」として設定し、本校の授業実践としては、「世界人権宣言50周年記念ポスターから感じとろう。」という題材で鑑賞の授業を行った。これは、人権ポスターを鑑賞することで人権についても考えさせ、作者の内面的表現意図を汲み取りながら、作品鑑賞を通して感じ取ったことを自分の言葉で素直に表現できるようにするものである。そして互いの意見・感想を聞き認め合い、自他のよさを認め、自分のよさを知る機会にしながら「いのち」について考えさせるものである。これは、鑑賞のスキルやコミュニケーションスキル3が生きていると考えられる。このほか「総合的な学習の時間」に行う内容とリンクすることができると思われるものとして、「自分の国旗作り」や「世界のお面」と題して国際理解と関連付けたり、ユニバーサルデザインと福祉を関連させたりすることが考えられ、各学校のテーマに沿って授業を組み立てることもできるものと思う。

本校では、「総合的な学習の時間」を3年生での修学旅行を通して自分たちで課題を見つけ、班単位で問題解決や課題探究の活動に取り組んだ例である。発表の場を文化祭とし、その学習を通して美術科とのかかわりを探り研究を進めてきた。

(ア) 学習の流れ

時間	流れ・学習活動	表現のスキル	コミュニケーションスキル	情報収集のスキル	材料の収集のスキル	自己認知スキル	意志決定のスキル	発想・構想のスキル	自己実現のスキル	目標設定のスキル	表現スキル	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル	用具、工具の扱い方	表現スキル	プレゼンテーションのスキル	鑑賞のスキル	コミュニケーションスキル	創造的思考スキル
1	・総合的な学習の時間の活動の概要を知る。	スケッチ・観察記録	1 伝統・芸能 環境 地域の行事 地域の方とのかかわり 食生活	視聴覚機器の活用(カメラなど)	収集(パンフ・拝観券など)	提案 人, 事象とのかかわり	興味・関心 教師からの投げかけ	事前学習の資料 体験・記憶	学び方, 知識, 技能	先を見通す力	イメージ化 様々な表現方法	3 自己, 他者理解	1 環境の違い	選択方法	配色の知識・方法 美の秩序	デザイン, 色彩 発表用紙	展示の方法, 工夫 鑑賞の仕方, 方法	3 自己, 他者理解	新たな課題
京都・奈良方面 修学旅行																			
2	・調査・追究していく課題を考える。(個人)																		
3	・文化祭に向けての説明 ・班テーマ(課題)の決定 班編成																		
4	・班内で課題検討, 決定 ・学習活動計画を立て, 進め方や役割分担をする。 時間計画配分 役割分担 進め方の確認 資料情報収集の方法検討 まとめ・発表の方法検討 制作班 - 必要な材料の検討																		
5	計画表にそって, 学習活動(追究活動)を進める。																		
6	情報や資料を収集・調査																		
7	発表手段の準備,																		
8	原稿作成 ・制作班 材料・用具の準備 制作活動 ・調査追究してきた内容をまとめ, 作成・発表準備 (文化祭発表)																		

(イ) 考察

今回の取組で学習活動を進める中で特に、情報や資料の収集や調査ならびに活用、発表の準備、調査追究してきた内容をまとめる中で、情報機器の活用や様々な表現方法を発展的に生かす場として「総合的な学習の時間」をとらえることができた。

研究のまとめ

1. 研究の成果

本研究会議では、図画工作・美術科で培った力や学んだことを「総合的な学習の時間」の中でどのように生かしていくのか、また、「総合的な学習の時間」で培いたい力や必要な力および生かしていくことの中で、図画工作・美術科から培っていくことのできる力や生かしていくことにはどのようなものがあるのか、などの関連を見いだす方法について研究してきた。

スキル分類表にまとめることから始まり、小学校や中学校の「総合的な学習の時間」の実践を通して、図画工作・美術科ではぐくまれる力や学ぶことが、「総合的な学習の時間」の中でどのように生きていくのか、スキルとしてまとめてみることで整理することができた。教科で培った力が生きている場面を2つの事例検証ではあったが、確認することができた。さらに、「総合的な学習の時間」を通して図画工作・美術科で身に付けておくべき基礎・基本についても見直すきっかけができた。また、図画工作・美術科の授業で扱う題材を「総合的な学習の時間」に行う内容とリンクしたものにし、教科の学習から「総合的な学習の時間」に発展させ、意識付けや課題発見の糸口を見つけたり、課題を探究したりすることができた。

2. 今後の課題

研究の過程の中で、教科で身につけるスケッチする力や鑑賞活動を通して自己や他者を理解していくことなど、各教科における基礎・基本を身につけることの大切さを改めて考えさせられ、同時に児童生徒に確実に身に付けさせたい基礎・基本を考えていく必要があると強く感じた。この研究においては、教科で培った力や学んだことを「総合的な学習の時間」の中でどのように生かしていくのか、その関連が見えてきた段階であり、子どもたちを通して教科で培った力や学んだことが確かに生きているかどうかについての検証には至っておらず、今後の課題となろう。その意味では本研究は、図画工作・美術科と「総合的な学習の時間」とのかかわりを示す一つの方法であったと言えよう。普段の教科の授業から身に付けた様々な力や学んだことが、「総合的な学習の時間」のどの場面でのような力が生きているのか、さらには「総合的な学習の時間」の取組から、各教科とりわけ図画工作・美術科の授業の中でさらに深く身に付けていくべき力の洗い出しをしていく必要もあるのではないかと。今後も図画工作・美術科と「総合的な学習の時間」とのかかわりについて探究していく必要性を感じた。

最後に、本研究を進めるにあたり、適切なご助言をいただいた先生方、研究をご支援していただいた研修員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心からお礼申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|--|-------|
| 武田 敏 『ライフ・スキル 教育基本構造』 | 1999年 |
| 板良敷敏・三澤正彦編著 『新しい教育課程と学習活動の実際』(図画工作) 東洋館出版社 | 1999年 |
| 高階玲治 『特色ある教育活動の展開』 明治図書 | 1999年 |
| 赤堀侃司 『総合的な学習と教員に求められる指導スキル』 日本教育工学会誌 | 1999年 |
| 遠藤友麗 『新中学校教育課程講座』 ぎょうせい | 2000年 |
| 児島邦宏 『教育の流れを変える総合的学習』 ぎょうせい | 2001年 |

【指導助言】

- | | |
|---|-------|
| 川崎市立麻生中学校長
(平成13年度 川崎市立中学校教育研究会美術科部会長) | 持丸 光正 |
| 川崎市立藤崎小学校長
(平成13年度 川崎市立小学校図画工作科研究会会長) | 長瀬 克則 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事 | 金井 則夫 |